

## オリエンタル系ユリの球根肥大状況について(10月27日現在)

平成29年11月6日  
 経営普及課  
 (農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センター、中山間地農業技術センター、高冷地農業技術センターにおけるオリエンタル系ユリ球根定期観測結果から、今年の球根肥大及びノーズ形成状況についてご紹介します。

## 1 供試球根

- (1) 調査品種 カサブランカ (オランダ産TYS球根)  
 (2) 球根サイズ及び前年・平年値との比較 (平年値は2007～2016年の平均)

年度	球根 サイズ	球根重 (g)	球周 (cm)	りん片 (枚数)	葉数 (枚)
2017	14/16	45.4	15.3	25.8	37.5
2016	14/16	47.3	16.2	25.7	35.8
平年値	14/16	48.0	15.5	25.6	39.3

※各センターとも同一ロットの球根を供試し、園芸研究センターで調査した。

## 2 耕種概要

観測場所 (所在地)		園芸研究センター (聖籠町)	中山間地農業技術セ ンター(長岡市川口)	高冷地農業技術セ ンター(津南町)
栽植距離		20×20cm、4条植	20×20cm、4条植	20×20cm、5条植
定植日(前年度)		4月3日(4/1)	5月2日(4/19)	5月2日(4/27)
N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O (kg/10a)	施肥 基肥	15-15-15(3/30)	10-10-10(4/10)	19-15-19(4/28)
	追肥 (実施日)	5- 5- 4(6/2)	5- 5- 4(6/15) 7- 7- 8(7/24)	3-4.2-3.6(6/26) 3-4.2-3.6(7/18)

## 3 生育・葉分化等の状況

- (1) 各センターとも5～6月の少雨により生育が一時停滞し、茎長は前年を下回った。  
 (2) 開花盛期は、前年に比べて定植が遅かったことや6月の低温の影響を受け、各センターとも前年より10日前後遅かった。  
 (3) 各センターとも、気温の低下とともに茎葉の黄化が始まっており、特に中山間地農業技術センターでは、茎葉の黄化・落葉が進んでいる。  
 (4) 球根肥大は、各センターとも肥大の良かった前年と比べて遅れており、平年比では、園芸研究センターはやや遅れ、中山間地農業技術センターは遅く、高冷地農業技術センターはやや早く進んでいる。  
 (5) ノーズ長は、中山間地農業技術センターと高冷地農業技術センターではほぼ平年並であるが、園芸研究センターでは平年よりやや遅れている。ノーズ内の葉分化は、園芸研究センター及び高冷地農業技術センターでは平年並、中山間地農業技術センターでは前年並に進んでいる。

## 4 具体的データ

添付ファイル「L20171027data」及び図1～図9を参照。

※ 次回の生育情報は、11月10日調査のユリの球根肥大及びノーズ形成状況(第5報)をお知らせする予定です。



図1 園芸研究センターにおける生育状況（左：球根養成ほ場、右：調査株）



図2 園芸研究センターにおける球根の肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図3 園芸研究センターにおけるノーズの発達状況



図4 中山間地農業技術センターにおける生育状況（球根養成ほ場）



図5 中山間地農業技術センターにおける球根の肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図6 中山間地農業技術センターにおけるノーズの発達状況



図7 高冷地農業技術センターにおける生育状況（左：球根養成ほ場、右：調査株）



図8 高冷地農業技術センターにおける球根の肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図9 高冷地農業技術センターにおけるノーズの発達状況